

描くことに命を捧げた
伝説の洋画家



《郵便配達夫》1928年 大阪中之島美術館

佐伯祐三

自画像
Saki Yuzo:
としての
風景
the Urban Landscape

主催
休館日 月曜日(三月二十七日は開館)
開館時間 一〇時～一八時(金曜日～二〇時)
*入館は開館三〇分前まで
東京ステーションギャラリー
「公益財団法人東日本鉄道文化財団」
読売新聞社

2023.
I.2I^(土)
4.2^(日)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



街に生き
街に死す



《コルドヌリ（靴屋）》1925年 石橋財団アーティゾン美術館

佐伯祐三

自画像
Saki Yuzo:
としての
風景
Emerging from
the Urban Landscape

主催
休館日 月曜日（三月二十七日は開館）
開館時間 一〇時～一八時（金曜日～二〇時）
*入館は開館三〇分前まで
東京ステーションギャラリー
「公益財団法人東日本鉄道文化財団」
読売新聞社

2023.
I.2I^(土)
4.2^(日)

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



大阪、東京、パリ。

3つの街で、画家としての短い生涯を燃焼し尽くした画家、佐伯祐三。その人生は多くのドラマと伝説に彩られています。彼が生み出した作品群は、今なお強い輝きを放ち、見る人の心を揺さぶらずにはおきません。

1898年に大阪で生まれた佐伯祐三は、25歳で東京美術学校を卒業し、その年のうちにパリに向かいます。作品を見せたフォーヴィスムの画家ヴラマンクから、「このアカデミック!」と怒声を浴びたことが佐伯を覚醒させます。2年間のパリ滞在中に、ユトリロやゴッホからも大きな影響を受け、佐伯の作品は変貌を遂げていきます。1年半の一時帰国を経て、再渡欧したのは1927年のこと。パリに戻った佐伯は、何かに憑かれたかのように猛烈な勢いで制作を続けますが、結核が悪化して精神的にも追い詰められ、1年後にパリ郊外の病院で亡くなります。30年の短い人生でした。

佐伯にとってパリは特別な街でした。重厚な石造りの街並み、ポスターが貼られた建物の壁、プラタナスの並木道、カフェ、さらには公衆便所までが、傑作を生み出す契機となりました。一方で、生誕の地・大阪、学生時代と一時帰国時代を過ごした東京も、佐伯芸術を育んだ重要な街です。この展覧会は、3つの街での佐伯の足跡を追い、独創的な芸術が生成する過程を検証します。東京では18年ぶりの本格的な回顧展となる本展は、佐伯芸術の魅力を再認識し、新たな発見へと導く機会となることでしょう。

見どころ ◎厳選した代表作100余点を一堂に展示

◎東京では18年ぶりとなる回顧展

◎赤いレンガ壁の空間で味わう、重厚なパリの街並みを描いた数々の名作



《立てる自画像》1924年 大阪中之島美術館



《レストラン(オテル・デュ・マルシェ)》1927年 大阪中之島美術館



《コルドヌリ(靴屋)》1925年 石橋財団アーティゾン美術館



《モランの寺》1928年 東京国立近代美術館



《下落合風景》1926年頃 和歌山県立近代美術館



《汽船》1926年頃 大阪中之島美術館

入館料 | 一般1,400円、高校・大学生1,200円、中学生以下無料

チケット販売 | 当日券 = 当館1階入口
日時指定券 = 当館ウェブサイト www.ejref.or.jp/gallery/

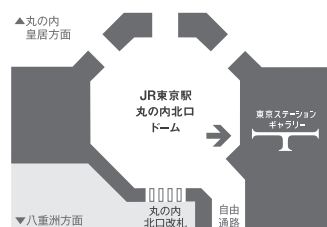
*展示室内の混雑を避けるため各時間で入館人数の上限を設定しています
*館内でも当日券をご購入できますが土日祝など混雑する時間帯は入館をお断りする場合があります
*障がい者手帳等持参の方は100円引き(介添者1名は無料)
*招待券/招待ハガキをお持ちの方や無料に該当する方は直接美術館へお越しください(予約等不要)

◎会期中一部展示替えをおこないます
◎最新情報や関連イベント(12月に告知予定)は当館ウェブサイトでご確認ください
◎都合により開催内容が変更になる場合があります

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
Tel.03-3212-2485 www.ejref.or.jp/gallery/
[交通]JR東京駅 丸の内北口 改札前



[次回展覧会] 大阪の日本画 2023/4/15(土)~6/11(日)

大阪、東京、パリ。

描くことに命を捧げた
伝説の洋画家

3つの街で、画家としての短い生涯を燃焼し尽くした画家、佐伯祐三。その人生は多くのドラマと伝説に彩られています。彼が生み出した作品群は、今なお強い輝きを放ち、見る人の心を揺さぶらずにはおきません。

1898年に大阪で生まれた佐伯祐三は、25歳で東京美術学校を卒業し、その年のうちにパリに向かいます。作品を見せたフォーヴィスムの画家ヴラマンクから、「このアカデミック!」と怒声を浴びたことが佐伯を覚醒させます。2年間のパリ滞在中に、ユトリロやゴッホからも大きな影響を受け、佐伯の作品は変貌を遂げていきます。1年半の一時帰国を経て、再渡欧したのは1927年のこと。パリに戻った佐伯は、何かに憑かれたかのように猛烈な勢いで制作を続けますが、結核が悪化して精神的にも追い詰められ、1年後にパリ郊外の病院で亡くなります。30年の短い人生でした。

佐伯にとってパリは特別な街でした。重厚な石造りの街並み、ポスターが貼られた建物の壁、プラタナスの並木道、カフェ、さらには公衆便所までが、傑作を生み出す契機となりました。一方で、生誕の地・大阪、学生時代と一時帰国時代を過ごした東京も、佐伯芸術を育んだ重要な街です。この展覧会は、3つの街での佐伯の足跡を追い、独創的な芸術が生成する過程を検証します。東京では18年ぶりの本格的な回顧展となる本展は、佐伯芸術の魅力を再認識し、新たな発見へと導く機会となることでしょう。

見どころ ◎厳選した代表作100余点を一堂に展示

◎東京では18年ぶりとなる回顧展

◎赤いレンガ壁の空間で味わう、重厚なパリの街並みを描いた数々の名作



《郵便配達夫》1928年 大阪中之島美術館



《レストラン (オテル・デュ・マルシェ)》1927年 大阪中之島美術館



《立てる自画像》1924年 大阪中之島美術館



《モランの寺》1928年 東京国立近代美術館



《下落合風景》1926年頃 和歌山県立近代美術館



《汽船》1926年頃 大阪中之島美術館

入館料 | 一般1,400円、高校・大学生1,200円、中学生以下無料

チケット販売 | 当日券 = 当館1階入口
日時指定券 = 当館ウェブサイト www.ejref.or.jp/gallery/

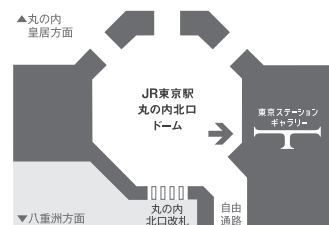
*展示室内の混雑を避けるため各時間で入館人数の上限を設定しています
*館内でも当日券をご購入できますが土日祝など混雑する時間帯は入館をお断りする場合があります
*障がい者手帳等持参の方は100円引き(介添者1名は無料)
*招待券/招待ハガキをお持ちの方や無料に該当する方は直接美術館へお越しください(予約等不要)

◎会期中一部展示替えをおこないます
◎最新情報や関連イベント(12月に告知予定)は当館ウェブサイトでご確認ください
◎都合により開催内容が変更になる場合があります

東京ステーションギャラリー
TOKYO STATION GALLERY



〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-9-1
Tel.03-3212-2485 www.ejref.or.jp/gallery/
[交通]JR東京駅 丸の内北口 改札前



[次回展覧会] 大阪の日本画 2023/4/15(土)~6/11(日)